海王丸タイムズ（仮称）

はじめに

海王丸のボランティアの皆さんいかがお過ごしでしょうか。海王丸が富山にやってきて3回目の冬を迎えております。

冬の間、海王丸とボランティアの皆様方をつなぐものがなく、どうしても疎遠になりがちでしたが、今冬より不定期で海王丸新聞を発行しようと考えました。

『カタフリ』

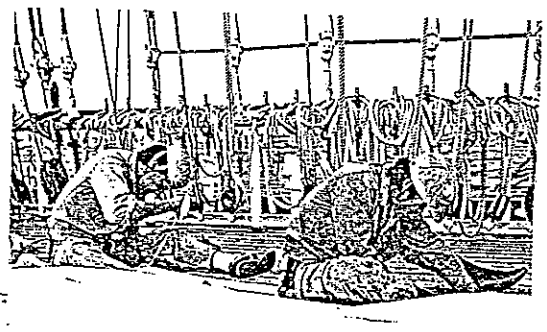
北陸の冬は、太平洋側に較べて雪に閉ざされ「海王丸」にやってくる見学客も少なく、また展帆ボランティアの方々ともお合いする機会も少なくなりがちです。ここで、ボランティアの方々との連絡告知板としての海王丸新聞を不定期で発行致します。

船内で船員達が世間話やよもやま話に興じることを、カタフリといいます。動詞の場合はカタをフルとなり、「ひとカタ、フルか」（ひとつ、面白い話でもするか）などといったりします。

語源は「語り」とか「語らう」といった言葉から出た、あるいは話に熱が入って来ることが、つい身振り手振りが入って来ることが、肩を振るという風に表現されるようになったともいわれます。

内容は忙しく単調になりがちな船内生活にあってほっと一息入れるときに、自慢話、港での景気のよい話、ホラ話、思い出話、失敗談等々が多いようです。いずれにしろ、長期間を手荒い海で同じメンバーで過ごす船員が考えた憩いの一つかも知れません。

この新聞もボランティアの方々に一つの憩いを提供できれば幸いです。



セイル縫い

セイル作製について

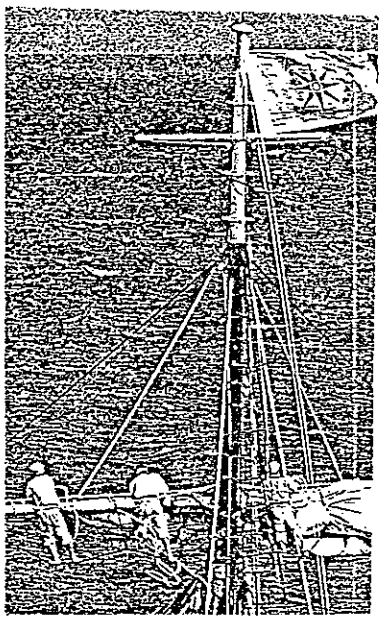
今年度より、冬場にボランティアの方々に海王丸により接していただくために、ボランティアの皆様にセイルの作製に協力していただくことになりました。昨年末、帆布の裁断をボランティアの協力を得て行いました。

この冬は、メインロイヤルセイルを作製する予定ですので「カタフリ」がてら、セイル作製に参加していただければ幸いです。

日時　2月21日までの毎週土、日曜日　1000頃から1600頃まで。

（参加時間は自由）

作業服及び用具は本船で用意しますが、昼食については必要な場合は各自でご用意下さい。



第6次展帆ボランティア募集の案内

現在海王丸の展帆ボランティアの訓練を受けられた方は延べ286名にのぼりますが、平成5年度上半期においては第6次の展帆ボランティアを募集します。ボランティアの皆さんの友達、知合いの中で、「自分も海王丸の帆を張ってみたい。」という方がおいでましたらご紹介下さい。

募集人員　40名

募集資格

原則として18歳以上の健康な方

募集期限

平成5年4月11日

申込先

（財）帆船海王丸記念財団

業務課　藤井、笹谷、川路

TEL0766-82-5181

ペンディングセール（セールの取り付け）の予定

昨年11月に降ろしたセールを3月にとりつけます。

予定としては3月20日（土）、21日（日）の予定です。

詳細については追ってご連絡します。

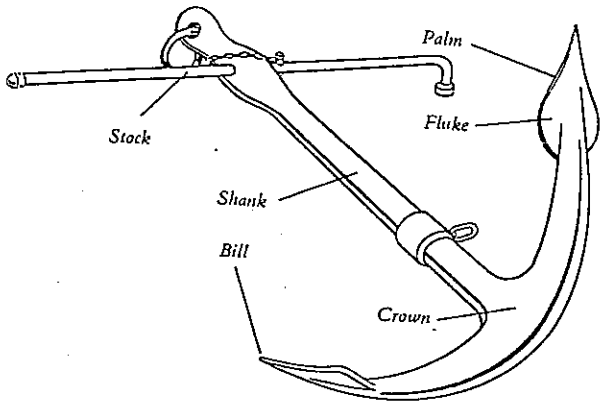
シリーズ「海の英語」

今後何回続けられるかわかりませんが、一般生活でもしばしば使用される海の英語について、その語源を主に調べてみます。海王丸ボランティアとして友人とのカタフリの中で、嫌みのない程度にウンチクを傾けるのも一興かと思います。

さて、第1回目は紙面に余裕ありという前提で、お馴染みの錨（anchor）を取り上げます。

まず英語ということでanchorから。本来の語源はギリシャ語のagkon（曲がった腕）、つまり形状が鈎状であることからで、これがagkuraとなり錨を表し、さらにラテン語のancoraになりました。そしてイギリスへと渡ったのですが、学者ぶった人たちの犯した誤謬、つまり単なる間違いで余計なhが加えられてanchorとなったそうです。いかにも海の英語らしいいい加減さですね。

日本語の錨（いかり）は、石が



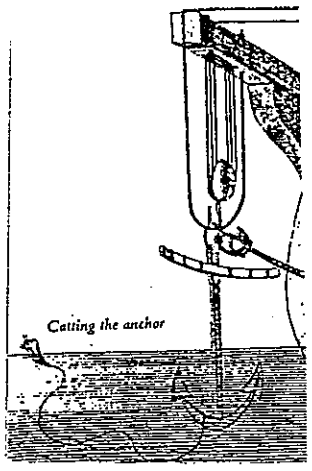
VOL. 1

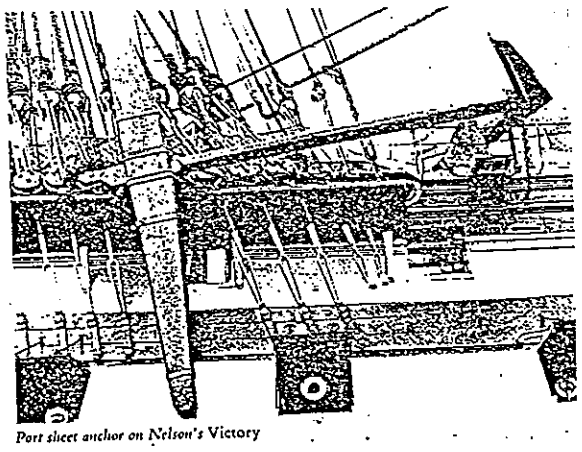
かりが原意で、鉤状の木枝に石をくくりつけて使用したことによるそうです。そして機能面からは、掟あるいは碇と書かれ、つくりの定は「水底への定着」を意味しました。蛇足ですが証券市場では相場がしっかりしているのを、碇り（しっかり）と読ませたようです。（ただし現在では確りと書きます。）

またその重量から、万葉集では重石あるいは重で錨を表し、播磨風土記では沈石をいかりと読んだそうです。さらに形状面から、その特徴的な鉤状の構造に着目し、鉤を爪に見たて、鋭敏な爪を持つ動物で最も人間に身近な動物である猫を連想して、いかりを木猫そして鉄猫と表し、ついに錨という文字となったようです。またまた蛇足ですが、本船の錨操作用のクレーンは、キャットクレーンとも呼ばれています。

錨は本来の物を表す他に、古くから「安定」、さらに「信頼」の対象とされ、「頼みも綱も切れはてた」というせりふも、綱は錨綱を意味するようです。西洋においてはさらに徹底しており、心臓のマークは愛の象徴、十字架のマークは誠実の象徴、そして錨のマークは信頼と希望の象徴とされています。

ちなみに、リレー競技で最後の役を引き受ける選手はアンカーと呼ばれますが、我々が日常親しんでいる言葉と船とのつながりは興味深いものです。




Port sheet anchor on Nelson's Victory

展帆ワンポイント・アドバイス

次回の総帆展帆（4／29）まで、かなりの時間がありますが、展帆時の注意を忘れぬ様にいくつかの注意事項を含めてボランティアの皆さんに、この新聞を通じて呼びかけていこうと思います。今回は、マスト作業での安全対策に関する標語をいくつか集めてみました。

① “片手は船のため、片手はおのがため”

高所での作業となる解帆・畳帆作業では、まず自分の安全確保を最優先に考え、安全を確認の後、作業を進めましょう。

② “動く綱、もたれた時が運のつき”

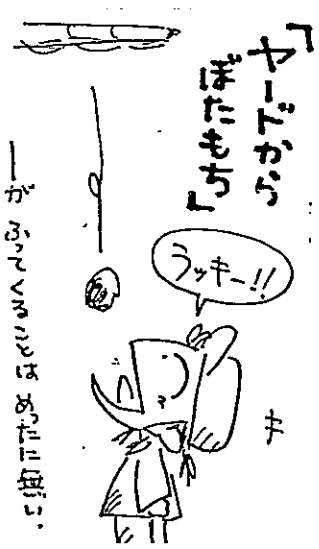
“動く綱”とは、動索と呼び、皆さんが展帆や畳帆の際に引くロープのことです。その逆に“静索”と呼ばれるマストを支えている太くて黒いワイヤーがあります。マスト上で待機したりする場合などに、決してこの“動く綱”を掴まぬよう心がけましょう。

③ “待てしばし、レッコの先の大いくさ”

“レッコ”とは、船乗り用語で“捨てる”ことを意味します。展帆や、畳帆の際に各ｽﾀｯﾌｷｰの号令で、ロープを引いたり、伸ばしたりする訳ですが、もし、間違ったロープを外したりするとそのロープが急に勢いよく伸びていき、慌てて掴もうとして大怪我をすることもあります。　それを防ぐ為にも、号令のアンサーバック（復唱）を励行しましょう。

④ “棚からボタ餅、マストからスパイキ”

高いマストを持つ海王丸の船上では、上から何が落ちてくるか分かりません。自分の身を守る為にも作業中には、しっかりと高所作業帽（黄色い帽子）をかぶりましょう。



あとがき

ボランティア主催の昨年末の餅つき大会、そして1月17日の鏡開きは多くの方々が参加され大変な盛況でした。またローカルニュースでも放送され、海王丸展帆ボランティアの存在を県民に知らせました。

現在、展帆ボランティアの訓練を受けた人は286名の多くにわたり、そのうち約200名の方々が展帆ボランティアの現役として活躍していただいております。

今までは、冬場の海王丸とボランティアのコミュニケーションの場となるものがありませんでしたが、この新聞を通じてボランティア間の投稿、連絡事項を掲載して、海王丸とボランティア間のコミュニケーションの場としていきたいと考えております。

連絡事項、投稿等あればご連絡ください。

最後に、この新聞の名称を募集いたします。いい名前がありましたらご連絡ください。